

防衛省 × Sakana AI：AIエージェントが切り拓く次世代の安全保障インテリジェンス

防衛省は、ハイブリッド戦に伴う情報過多に対応するため、日本発のスタートアップ「Sakana AI」と約3.3億円の実証契約を締結。最新のAIエージェント技術を活用し、OSINT（公開情報）の収集・分析・管理を高度化することで、迅速かつ正確な意思決定を支援する「AI主権」の確立を目指しています。

AIエージェントによるインテリジェンス・サイクルの変革

自律的な多言語ソースの巡回・抽出



長時間推論による戦略的シナリオ構築



トレーサブルなナレッジ管理



防衛省が推進するAI導入の多層的な役割分担

適用レイヤー	担当企業 / 技術	主な任務
戦略インテリジェンス	Sakana AI (Fugu/MarOn)	公開情報の収集・分析・管理
戦術・指揮統制 (C2)	Sakana AI (小規模エッジVLM)	ドローン・センサー情報の統合
作戦計画立案	PLaMo Preferred Networks (PLaMo)	シミュレーション・作戦策定支援

日本の防衛AI戦略と実装のあり方



「AI主権」の確立と
国外依存の脱却

地政学的リスクを避け、国内の秘匿環境
で完結する国産AI基盤を構築。



Human-in-the-loop
(人間参加型)の維持

AIは判断支援に徹し、最終的な情勢評価や
意思決定は人間が責任を負う通用。

3億2,903万円の実証プロジェクト



2027年度末までのロードマップに従い、基幹
システムへの社会実装を目指す。